

授業科目名 (講義題目)	資産運用とリスク管理 (SMBC日興証券グループ提供講義)		開講学期 単位数	前期 2単位
担当教員	松下 雄一	講義コード 17176005	科目区分 対象学生	選択 1・2年生
開講予定日	① 4/12 ② 4/19 ③ 4/26 ④ 5/10 ⑤ 5/17 ⑥ 5/24 ⑦ 5/31 ⑧ 6/7 ⑨ 6/14 ⑩ 6/21 ⑪ 6/28 ⑫ 7/5 ⑬ 7/12 ⑭ 7/19 ⑮ 7/26			
履修条件	「意欲」と「好奇心」があれば十分です。 外国の方の履修も大歓迎。 (英語説明が可能)	キーワード	ニューノーマル(新常態)、ポピュリズム、リスク、分散投資、アセットアロケーション、モラルハザード、量的緩和、マイナス金利	
全体の教育目標	資産運用の実際を知り、必要知識を習得し、運用手法および投資のリスク管理等を学びます。	個別の学習目標	世界経済金融の「現状と問題」を説明できますか？	

授業の概要

ワクワク、ドキドキ、時にハラハラの『金融の世界』へ、ようこそ!!

ここ数年の世界経済・金融では、リーマン・ショック(2008)や欧州債務危機(2009)、新興諸国の台頭・変調など、過去の経験則やパターンからは説明できない事象が多発しています。

昨年(2016年)でも、世界が驚愕した「英国のEU離脱決定」、米国大統領選挙での事前予想を覆す結果など、その結果の背景にある「反グローバル化、反移民、自国第一主義」という、これまでの「グローバル化、共存共栄、難民移民の支援」と全く異なる潮流が世界を覆いはじめている状況を、世界全体が知るようになりました。

また、金利面でも金融政策・市場金利における「ゼロ金利」「マイナス金利」などのように、4000年を超える「金利の歴史」で初めて示現したことは何を意味するのでしょうか？
これら事象が、経済の将来予想や投資判断を一段と難しくしているのは間違いありません。

この金融経済環境の歴史的変化により、複雑化・多様化した『リスク(不確実性・ブレ)』をどう管理・コントロールすべきか、それを踏まえた「自身のライフプラン」を支える「資産運用」はどうあるべきか、今一度、真剣に考える時を迎えています。

私たちは、「従来発想」「既成概念」「固定観念」「思い込み」は一掃すべき時と思います。

そして、それら変化や新トレンドの『本質』を正しく理解し、将来予測の確実性を高めるため私たちが必要とする「経済金融知識」とはどのようなものか・・・これらの問題意識をベースに、さまざまな観点から講義をすすめていきます。

『新トレンド』=『あるべき将来像』とは限らないことを再確認しましょう。

(世界経済の予測方法、経済金融統計の見方、金融政策の実際、金融資産の特性、国際資金の流れ・・・)

担当講師は、海外駐在(3回)、40か国程の海外出張の実務、幼少時の海外居住でさまざまな歴史的イベント、事件、経済危機、紛争に遭遇し、目の当たりにしています。その事例を各回の内容に沿って紹介し、よりリアリティ、臨場感のある講義にしていきます。

(キューバ危機、ケネディ暗殺、プラザ合意、ブラックマンデー、湾岸戦争、アジア通貨危機、リーマンショック、欧州債務危機等)。さらに、講師の米国ウォール街での業務体験談、欧州、アジア、中東での「ここだけの話」(?)など、「ワクワク・ドキドキ・ハラハラ」の連続の現実の金融ビジネス世界もお話ししましょう。

レポートは2回～「ケース・スタディ」形式。

皆さんが「米国中央銀行・FRB」「欧州中銀」等の中央銀行理事会メンバーになり「次の一手」の金融政策提言、さらに「IMF」スタッフの立場で中国など新興諸国にアドバイスする、など世界経済・金融の問題に解決策を提示する、という感覚で書いて下さい。斬新かつ自由闊

	<p>達なレポートを期待します。</p> <p>経済金融構造、国際関係、マネーの流れでは、これまでの概念・常識・パターンの多くが変化・消滅し、新しい秩序が生まれています。これを念頭に置き、今後の経済金融の流れを見据えることが肝要です。</p> <p>「絶滅を免れた生き物は、強かったからでなく、環境に順応し、変化を遂げ、進化して行ったから・・・」</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>講師作成の「レジメ」（毎回配布）、参考資料を中心に講義。 最新の経済金融トピックスも毎回盛り込み、知識・考え方を随時アップデートしていきます。そして、先に記載したように講師の米国ウォール街等での業務経験談、こぼれ話など現実の「ワクワク・ドキドキ」のビジネス世界もいろいろご紹介します。</p>
<p>教科書および参考図書</p>	<p>「今日から役立つ、経済の読み方と投資の基礎」（認定NPO法人 金融知力普及協会） 「『金融工学』は何をしてきたのか」（今野浩著 日本経済新聞社） 「グローバル・インベスティング」（R. イボットソン、G. プリンソン ニッセイ基礎研訳 東京経済新報社） 「世界金融危機でわかった、しぶとい分散投資術」（田村正之著 日本経済新聞社） →担当講師は田村氏の取材を受け、この本にコメントが掲載されている。 「FPのためのアセットアロケーション入門」（北山雅一編著 近代セールス社） 「パーソナルファイナンス研究」（貝塚啓明監修 日本FP協会 日経メディアマーケティング編集） 「Soros on Soros（邦題「ジョージ・ソロス」）」（ジョージ・ソロス著 テレコムスタッフ社） →担当講師は、この本の監修を担当（分担）。 「World Economic Outlook（世界経済見通し）」（国際通貨基金：IMF）→「http://www.imf.org」にアクセス ・・・その他参考図書は、講義の中で適時紹介します。</p>
<p>試験・成績評価の方法等</p>	<p>定期試験（60%程度）、課題レポート（2回・40%程度）、その他で総合評価。</p>